

## 保育所その他の入所児中、問題児の生活治療の技術にかんする研究 (3)

### —入園当初児における問題行動の傾向—

研究第9部 多 勢 豊 次

入園後、約10日を経た72名の幼児の母親に、問題行動および社会性を測定すると考えられる2種類の質問紙を配布し、チェックによる評価をしてもらった。そして、全くチェックされなかった行動と、数多くチェックされ

た行動に分類した結果、「問題行動」の傾向が示され、社会性得点の多少と関連づけた結果、なにを「問題」あるいは「問題でない」とみなしてよいかも考案された。

### I 目 的

幼児における問題行動は、年齢との関連や、評価者の感じ方のちがいを考えなければならない。この点を明らかにするために、先づ母親によって問題とみなされる行

動にはどのようなものが多いか、又少ないかをみる。

次に、それらの「問題行動」を子どもの適応状態のインデックスと考えられる「社会性」と関係づけてみる。

### II 方 法

43年4月に、ある幼稚園の2年保育に入園した72名の4才児の母親に、幼児行動調査表(前研究のもの一表1a)および行動評価用紙(坂本氏作製、昭和36年一表1b)にチェック記入してもらった。記入日は入園約10日後であった。

第1表 b 行動評価用紙の内容

第1表 a 幼児行動調査表の内容

行動ないし性格にかんするもの	乱暴、反抗、引込思案、神経質、おちつきなし、怖れなど	144項目
神経症的習癖にかんするもの	食欲不振、偏食、夜驚、吃り、指しゃぶりなど	59項目
身体症状にかんするもの	栗物酔い、ぜんそく、夜尿、チックなど	42項目

1. 幼稚園に行きたがるかどうか	各問を 5段階評定
2. 幼稚園が好きか嫌いか	
3. 友だちが多いか少いか	
4. 親によく話しかけるかどうか	
5. 他人に返事ができるかどうか	
6. 他の子どもと協調するかどうか	
7. 他人のいいなりになりやすいかどうか	
8. 一人でいるのを好むかどうか	
9. 朝の挨拶ができるかどうか	
10. 進んで手伝いができるかどうか	

### III 結 果

1. 問題行動のチェックされた傾向(第2表)

2. 社会性との関係

行動評価用紙の結果はだいたい、粗い正規分布をして

いたので、両側の25%をとり、低社会性グループ(17名)、中間グループ(39名)、高社会性グループ(16名)に分けた(第3表)。

第2表

	行 動 ・ 性 格	神 經 症 的 習 癖	身 体 症 状
全 く チ ェ ッ ク さ れ な か っ た も の	仲間はずれにする かげ口をいう 悪口をいう 協力しない 大人からはなれられない 皆の前に出たがらない 友だちがない いつも遅れてしまう みなのように行動できない 感情を表わせない 自分から始めない 人の後にばかりついていて ビクビクしている 持続できない 大げさにいう 気げんが直らない かわい気がない 大人にばかり相手をしてもらいたがる 子どもらしい処がない 赤ん坊じみてる 年下の子どもでないと遊べない よく嘘をつく 物を盗む 家のものをもち出す 残酷なことを好む 人のものを奪う 悪い遊びをする	食物でないものを欲しがる 夜中に歩いたりする 下腹部をこする 性的なことをよく口にする	めまいをおこしやすい 胸がドキドキするという 胸が痛いという 急に脈が早くなる 気を失う ひきつけや発作をおこす 昼間おもらしをする 大便をもらす 手足のふるえることがある 手足がしびれたりする たえず体をゆする 目をパチパチさせる ほほをビクビクさせる 鼻をククンさせる 肩をビクビク動かす 首をよくふる 急に目が見えなくなる 急に耳が聞えなくなる 急に声が出なくなる
多 く チ ェ ッ ク さ れ た も の  (各項目数の約10%を選んだ)	(33人) 甘える (31人) くやしがる (26人) はしゃぎやすい (24人) ふざける (23人) 思い通りにしようとする (22人) 要求を通そうとする (22人) はづかしがる (22人) おしゃべりである (20人) すねたり、ふくれたりする (16人) 用心深い (15人) 神経質である (14人) 強情である (14人) おちつきがない	(23人) 食事の量が少ない (21人) 食事が長くかかる (16人) 声がカン高い (16人) 鼻をほじる (15人) 一人言をよくいっている	(13人) よくかゆがる (12人) 便秘をしやすい (11人) よく汗をかく (10人) カゼをひきやすい

第3表

低社会性グループに多い項目	3グループごとのチェック数			高社会性グループに多い項目	3グループごとのチェック数		
	低	中	高		低	中	高
すねたり、ふくれたりする	6	14	0	よくけんかをする	0	5	5
甘える	14	13	6	反抗する	1	7	4
はづかしがる	9	12	1	ボスやリーダーになる	0	1	5
自分から話しかけられない	4	4	0	気が散りやすい	1	6	5
依頼心が強い	4	1	0	おしゃべりである	2	12	8
新しいことをあまりしない	3	1	0	早口にしゃべる	0	6	4
マネが多い	4	4	1	夢などを見て泣き叫ぶ	0	4	3
こわがりやすい	5	5	1	暗い処では眠れない	1	1	4
気が弱い	6	4	2				
偏食が多い	7	5	2				
気分によって食べなかったりする	6	1	2				

※選んだ基準：全体のチェック数が少ないばあいは 3:0 (または 0:3)、あるいは 4:1 (または 1:4) 以上とし、多いばあいは、一方のチェック数が2倍以上とした。

#### IV 考 察

##### 1. 問題行動のチェックされた傾向について

全くチェックされなかった項目は、次の諸要因によるためと推定され、反対に多くチェックされた項目は、それらとは逆の諸要因によるためと推定される。

- 母親にとって問題とみなされにくい——みなされやすい。
- 入園当初のため、園生活における行動は未だ評価できない——入園当初によくみられる。
- 4才児にとってはすでに見られなくなった行動か、あるいは未だあらわれない行動かも知れない——4才児にはしばしば見られる。
- 一般の幼児には本当に見られない行動——よく見られる行動。
- 敘述の表現が適切でなかった——表現が適切であった。

これらのことから、全くチェックされなかった項目ないし行動には、さらに研究を重ねることが必要であり、又多くチェックされたものを、専門家が安易に「問題」とみなすことは慎重であるべきかも知れない（ただし、「甘える」、「恥しがらる」、「すねたり、ふくれたりする」を除いて）。

##### 2. 社会性との関係について

行動評価用紙は同じく母親の評価によっているが、質問がかなり具体的であり、又5段階評定になっているので、一応、社会性傾向の多少を得点化してくれるものと思われる。したがって、低社会性グループに多い項目は「本当の問題」とみなしてよいかも知れない。反対に高社会性グループに多い項目は、たとえ母親が「問題」とみなしても、本当の問題とみなす必要はなく、むしろ望ましい行動ではあると考えてもよいかも知れない。

3. 約1年後および2年後、同じ子どもたちの母親に、同じ2種類の質問紙で評価してもらう予定であるので、その結果から、上述の諸要因が検討され、又本当の問題とみなしてよいか否かもしだいに明らかになって行くと思われる。さらに又、保育効果の程度も副次的に測定されることになろう。

#### 〔文 献〕

- 坂本竜生：評価——非社会性児における遊戯治療の効果の測定（森脇要他：子供の心理療法、p. 342～348）、慶応通信、昭和36年。

- 2) 多勢豊次：問題児の生活治療の技術にかんする研究 (1)、日本総合愛育研究所紀要 第2集、1966、 p.193~4。

## Behavior Disorders in Four-year-old Children

Toyaji Tase

In order to find how often the "behavior problems" occur among four-year-old children, and what the relationships between these problems and the social maturity of children are, seventy-two mothers whose children began to attend the kindergarten for the first time were given two kinds of questionnaire and asked to evaluate the behaviors of their children. The results indicated that "undesired" behaviors are much common even in the positive social group of children.